

クラス番号	626	担当教員名	大濱 裕
テーマ	住民参加と地域社会の自立 ～ 新たな地域の時代を求めて ～		
著書・論文	著書 「参加型地域社会開発の理論と実践」 ふくろう出版 2007 年 「Participatory Local Social Development」 Bharat Book Center 2007 年		
研究課題等	論文 「参加型地域社会開発の基本的枠組みと視点、及び、それに基づく評価枠組み構築にかかわる研究」 国際協力機構（JICA） 2002 年 課題 参加型地域社会開発（住民参加と地域社会の能力育成・システム構築）		

ゼミナール概要

キーワード： 開発3要素、地域社会システム、地域自治、地域コミュニティの機能類型、経験的学習、変化のプロセス

地域社会は「生き物」です。それぞれに自然生態環境に根ざした文化・伝統や暮らしを自ら維持管理してゆく「独特の能力・経験・仕組み・価値規範」を備えた「ミクロコスモス（小宇宙）」的存在です。生活問題のあり方も、その解決に取り組む住民参加や行政・NPO との参加・協働の仕方も、この地域社会の在りようによって随分と異なったものとなってきます。丁度、みなさん一人ひとりがそれぞれに相異なるように、地域社会もまた固有性を内に秘めた特別な存在なのです。「ふくし」が目指す「共に生きる社会」の実現は、先ず相手があるがままに理解し、認めること、そして、お互いに補い合いつつ共存してゆくこと。「地域社会の自立」を考える際も、先ずはその地域社会の可能性や限界があるがままに観てゆく、理解してゆく処から始まります。地域社会の自立を育み培ってゆく要素・要件を明確に捉え、地域の実情・実態を踏まえ尊重し活用しながら共に参加・協働してゆく取り組み、それを可能にする「匠の眼と技」を一緒に学んでみませんか。

（目的）地域住民を中心に、行政・NPO/NGO と共に参加・協働し、より良き地域社会の実現や地域自治の構築・強化に必要とされる理論的枠組み・視点や実践手法を習得し、また、等身大の目線で日々の暮らしや社会的絆を紡いでゆかれる豊かな人間的資質を備えた人材の育成を図ってゆきます。

（内容）このゼミでは、今日、第三世界（アジア・アフリカ・中南米諸国）や日本の自立的・持続的な地域社会開発の現場で取り組まれて来ている「参加型地域社会開発（PLSD）」理論の基本を学び、「地域社会を観る眼」と「住民参加を生起し、行政・NGO/NPO との協力・連携を実現してゆく技」を学生諸君の実践的・経験的な取り組みを通じて学んでゆきます。

（方法）学生諸君の主体的・自発的な学習を尊重し基本とする意味で、次のような方法を取ります。

- 1) 4-5 名で構成される各グループによる「サブゼミ活動」を基本とします。
- 2) 本ゼミは、教員と学生諸君の「ディスカッション」を基本とし、「理論学習と事例分析」を組み合わせながら理解を積み上げてゆく方法ですすめてゆきます。
- 3) アジア・アフリカ・中南米の開発専門家と共に「参加型地域社会開発（PLSD）」研修に参加し、日本の地域自治（飯田市・神戸市真野地区・半田市 等）の経験・知見・仕組み等を現場で学んでゆきます。
- 4) フィリピン / バスティアン市における PLSD プロジェクト 現場を訪れ、住民参加による地域コミュニティ開発や行政連携の経験や実践手法を日本の事例と比較検討しながら、地域のあり方の違いとコミュニティ支援手法の内容の相違を分析・検討してゆきます。

（対象となる学生） 第三世界諸国および日本の地域開発・地域福祉問題に関心を有し、将来、海外・日本の現場で専門家（地域開発・地域福祉）、行政職員、社会福祉協議会職員、NGO/NPO 職員、青年海外協力隊として活躍することを願っている学生諸君が最もふさわしいでしょう。型にはまらない独自の生き方を模索している諸君、生命の大切さとその深い意味を真剣に考え、人生の指針を得ようと努力している諸君を歓迎します。

（履修上の注意）

- 1) 志望表と共に、「住民参加と地域社会の自立」に関する考え・想い（2000 字程度）を纏め提出して下さい。
- 2) ゼミ活動に主体的に参加し、仲間と共に課題に取り組んでいく「意欲・根性」が必須です。

担当教員からのメッセージ

「為すは人にあり、成すは天にあり」と云います。また、良きこと・楽しいことも、悪しきこと・辛いことも全てその人の成長に必要なからこそ与えられます。全てを、静かに受け止め、与えられたことの意味に深く想いを致し、自らに授けられた「人生の意味と役割」を共に考えてゆきましょう。地域のなかで、仲間とともに、「我苦悶（学問）」を探究してゆくような経験を紡いでみませんか。